



太^だ政^{じょう}官^{かん}符^ぶ (重要文化財)

神祇官宛

宝龜 3 (772) 年写 1 通

縦 29.2cm 横 52.7cm

太政官は、二官八省の頂点に位置づけられ、すべての行政事務を総括した役所である。符とは、上級官庁から下級官庁へ出された文書をいう。太政官符には執行官と書記官とが署名をするが、この官符には藤原百川の自署が見られる。百川は、藤原氏式家宇合の子で、不比等の孫にあたる。当時衰微しつつあった藤原一族の再起を図り、光仁天皇（桓武天皇の父）の擁立に奔走するなど、かなりの策士家だったと言われている。

この官符には、武蔵国入間郡（現在の埼玉県川越市付近）で起きた、租税である米

を貯蔵する正倉が焼亡した事件と、それへの対応が記されている。

こうした火事騒ぎ

は「神火事件」と呼ばれ、奈良時代の半ばすぎから各地で度々発生した。初めは、天の神が怒って火をつけたと信じられていたが、国家の財政の損失が大ききことから政府の調べが進み、その真相が次第に明らかになっていった。

一つは、古くからの郡司と新興豪族との争いで、互いに相手をけおとすために放火し、罪をなすりつけるものである。もう一つは、郡司だけでな



く国司の悪事もさかんで、正倉から稲を横取りしていたが、中央からの役人が調べに来る前に証拠隠しのために焼くのである。このように神火は、農村での新旧二つの実力者の争いと、政治の乱れを物語っている。

奈良時代の太政官符が伝存するのは大変珍しく、奈良正倉院にさえ残っていない。現存は四通のみ知られている。

（天理図書館 三村 勤）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
ただし6月30日は休み
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）